

(様式2)

平成 23 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200257		
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム福住 東ユニット		
所在地	新潟県長岡市福住2丁目1-15		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年10月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「福が住む街づくり」として地域ケアの拠点となるべく開設され、複合型施設として有料老人ホーム、特別養護老人ホームが併設され、常に感謝の気持ち、謙虚な姿勢、笑顔で挨拶をスローガンに取り組んでいる。中心市街地という利便性を活かした外出活動・地域行事への参加など地元に着した事業所を目指し取り組みを行っており、行事の企画運営は併設事業所と合同で開催したり、サークル活動やパワーリハビリ等への参加など、グループホームとしての取り組み以外でも交流を広げることができ積極的に地域・家族との関わりに取り組んでいる。2年を経過し、近所の方との交流や、バルコニーや畑・苑庭を活かした活動への取り組み・自然や子供たちとの触れあいの機会も増えており、動物を通じての活動などにも取り組んでいる。

「グループホーム福住」は、植栽・緑の多い庭を有した広い敷地内に、特別養護老人ホーム、有料老人ホームが併設された複合型施設の2階に位置している。長岡市街の中心地に位置し、周囲には商店街や公共施設も多く、交通の利便性に恵まれている。また、近くには桜並木があり、四季を感じながら心豊かに暮らせる環境にある。

ホーム内は広く、明るく、随所に木の温もりが伝わる造りの中に、多くの観葉植物や熱帯魚、生け花、玄関ディスプレイ等、職員のアイデアが発揮され、上質な暮らし、居心地の良い空間づくり、質の高いサービスの提供が実践されている。広いバルコニーがあり、庭や街並みを一望できるほか、バーベキューや行事を行うことができ、楽しみごとや地域の方との交流の場となっている。

高齢者が認知症になっても安心して住める街づくりを目指し、長岡の福祉の向上に長く貢献してきた社会福祉法人を運営母体として開設し、3年目を迎えている。併設の施設内保育苑の子どもたちや、近隣の住民とその飼い犬が定期的に訪れるなどのふれあい交流、地域行事への参加、施設内行事への地域住民参加への呼びかけ、広報誌の作成など、地域に密着した取り組みを行いながら、利用者一人ひとりの主体性を持った暮らしを支援している。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>支えて頂いている地域の方々や家族に、いつまでも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な気持ちを持って取り組んでいくことを理念の一つとして掲げている。会議やミーティングの中で言葉にし、常に振り返り、意識しながら、生活支援において具現化に努めている。</p>	<p>法人の理念を基に、開設時に職員で作上げた「感謝の気持ち」「謙虚な姿勢」「笑顔で挨拶」の3つのスローガンをケア実践の拠り所とし、上質感を感じる空間づくりと心地よさのある暮らしを実現化している。スタッフ会議で振り返る機会を持つことに加えて、毎朝のミーティングで確認し合っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近所への買い物や散歩、地域の行事や催し物、清掃活動等へ参加し、地域の方からも施設行事へ参加いただいている。また施設全体でのボランティアの受け入れを行っている。避難訓練にも参加してもらい災害時の協力関係を築いている。</p>	<p>ホーム周辺の散歩に出掛けて行きかう住民に自然と挨拶を交わし、交流を深めている。また、地区の敬老会や町内会に参加したり、地域の方から野菜や花の苗をもらう一方、ホームで作った自家製の梅酒やおやつをおすそ分けしている。町内行事のクリーン作戦へも利用者・職員が一緒に参加している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>管理者により、事業所での実践を踏まえて地域の会合などに関わりながら、認知症ケアの啓発に努めており、管理者が講師としてキャラバンメイトとしての活動に関わっている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では毎月の取り組みやご利用者、職員の状況を報告し意見をいただいている。行事などにも参加し実際に状況を見ていただける場面を設けながらアドバイスいただいている。会議記録は面会時に閲覧できるようにしている。</p>	<p>利用者、家族、地域包括支援センター職員、市職員、民生委員、町内会長をメンバーに2ヶ月に1回開催している。行事報告や利用者の状況報告の他に、防災訓練への協力や、動物や子どもたちとの交流の機会を提案してもらい、実現している。また、一緒にグリーンカーテン作りをしたり、利用者とともに屋外での食事や活動をする「デイキャンプ」に参加してもらい、事業所の取り組みを体験してもらっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>集団指導と同時開催された意見交換会への参加。運営推進会議に市の職員に参加して頂き、意見や助言をもらっている。わからないことは日頃から連絡を取り合う、市へ足を運ぶ等して相談している。市の介護相談員に2ヶ月に1回来所してもらいご利用者の声を聞いていただき、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>市の担当職員には運営推進会議にも参加してもらっており、気軽に相談したりアドバイスをもらえる関係にある。また、地域において認知症サポーター養成を協働で行うなど、連携しながら地域福祉の向上に取り組んでいる。市の介護相談員にも2ヶ月に1回来訪してもらい、利用者の思いや意見を聞いてもらってサービスに役立てている。平成23年11月には市主催の意見交換会にも参加し、市職員や市内の他事業所と意見・情報交換を行った。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際の現場で行っているケアが拘束に当たらないのかなど、その都度声に出して確認するようにしている。施設内研修会等で拘束となる具体的な行為について学ぶ機会を設け、周知している。	複合施設全体での内部研修において「身体拘束となる具体的な行為」について全職員で理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族からリスク回避のため身体拘束の要望があっても、身体拘束をしないケアを理解してもらえるよう専門性を持って対応している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し実際の現場でどのようなことがそれに当たるのかなど、日ごろの業務の中で意識を持ち、実際の場面でも声に出して話し合いの場を持っている。研修会等に参加し、虐待についての理解、周知に努めている。	複合施設全体での内部研修において「虐待防止関連法」について全職員で学習し、内容の周知を図っている。言葉による虐待等も見逃すことがないように職員間で注意を行い、確認合っている。管理者は職員の状況を常に把握して、勤務体制を工夫するなどストレスや負担の軽減に向けて対応している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が把握しており、研修等により職員への指導を行っている。個々の状況をその都度報告し、必要性について話し合う機会が持てるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し、疑問点などはその都度お聞きしながら理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来やすい雰囲気作りに努め、意見や要望など会話の中からくみ取るようにしている。また意見箱の設置や運営推進会議での意見の反映、介護相談員により利用者の意見を聞いてもらう機会を設けている。毎月広報誌を発行しご利用者の生活についてお伝えしている。	面会時に要望を聞いたり、介護計画の更新時等に意向を聞く機会を持っている。常に話しやすい雰囲気作りや笑顔での対応を心がけ、意見等の引き出しを行っている。利用者の意向や要望は、主に日々の会話の中や、介護相談員からの聞き取り内容などから把握している。	意見箱の設置や、面会時に働きかけるなどの対応は行っているが、中々意見が集約出来ていない状況にある。より一層サービスの質を上げていくためにも、職員間でアイデアを出し合い、意見や要望を引き出すために積極的に取り組むことを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議やミーティングに参加し職員の意見を聴く機会を設けている。	スタッフ会議の中で積極的な意見交換が行われている。環境整備や食事の内容、食材購入方法等の提案があり、改善につなげている。管理者は、現場の声を週1回の事務局会議で運営者へも伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、変化や状況に合わせて環境整備・条件の整備を行い、必要な時に相談に乗り、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修会の開催の他、法人内外の研修への参加の機会を設け、資格取得の支援・勉強ができるように取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人内での部会が開催され意見交換や勉強会の場を設けている。法人内での研修や交換研修を行っており、他事業所との交流があるとともに、取り組みなどを実際に確認できる場がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接し、希望や困っていることなどをお聞きし、疑問や不安にこたえられるようにしている。また職員でその情報を共有し、利用者が安心できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接し、今までの生活状況を伺い、施設の状況をお伝えし、家族の要望や不安などをお聞きしている。その時のケアマネージャー、サービス機関などから情報をもらい参考にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要か、管理者、看護師や相談員など、他職種に相談できる場面を設け対応している。必要なサービスにつなげられるように法人内施設を中心に適宜連絡を取り合っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活場面や活動において、利用者と一緒に、することを第一に、ご利用者から教えていただいたり、調理や家事、季節や地域の風習に関して利用者が力を発揮できるよう支え合いながら信頼関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへ参加を呼びかけできるだけ一緒に過ごせる時間が持てるようにしている。また面会時や電話連絡、広報誌でご利用者の表情を伝えながら積極的にコミュニケーションを図り、協力を得ながら一緒に取り組むようにしている。	通院の機会を活用して、家族、主治医、ホームが情報の共有を行い、利用者の健康を共に支えている。また、家族の面会時にはゆっくり利用者で過ごせるように配慮し、時には担当職員も同席して、利用者の思いを共有しながら、よりよい暮らしの実現に向けて一緒に支援している。家族の行事への参加率も高い。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人、知人が面会に来られた際は居室でゆっくりできる場を設け、希望時には地域や自宅への外出・外泊支援をしている。また、同施設内の友人知人の方への面会などにも気軽に行けるように声かけしている。	利用者が親しんできた「歌声喫茶」へ出かけたり、毎週取り組んでいる「パワーリハビリ」の利用仲間と1泊での温泉旅行に出かけるなど、これまでの暮らしが継続できるように支援している。また、家族の協力で外出や外泊をする機会もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見ながらご利用者同士のコミュニケーションを把握し、適宜職員が仲介に入ったり、寄り添ったりしている。状況に応じて席替えや配置換え等環境を整えている。ユニット間の行き来も自由にでき、交流の場が持て得るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居された方にも、面会に行ったり、気軽に遊びに来ていただいたり声かけをし、交流を継続できるようにしている。また、入居先の施設との情報交換を行い、フォローできるような体制づくりを行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活の中から意向をくみ取るようにしている。希望についてはミーティングで話し合い、できるだけ実現できるように努めている。困難な方には表情や行動からくみ取り、家族等に情報収集し、本人本位の検討に努めている。	一緒に買い物に出かけた際に利用者とゆっくり話をする機会を持ち、思いや意向の引き出しを図っている。また、日常の中で職員が気に止めた利用者の言動をミーティング等で共有し、利用者の思いの実現に向けて検討している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報聴取の他、実際に訪問して家や部屋を見せていただき、どのような生活をされていたのかがわかるように、可能であれば写真に撮り職員に情報提供している。好きな事や趣味などがわかるようにしている。	入居前の事前面接において自宅での暮らしぶりを把握している。利用者・家族からの聴取の他、自室の様子などから利用者の生活状況を確認し、また、センター方式のアセスメント表を家族に記入してもらい、生活歴等の把握に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を把握した中で、その日の表情や体調などを見て、できることを一緒に行うようにしている。毎日のミーティング時にご利用者の状態を話し合い普段の様子について共有している。体重測定を月1回行い、入浴時にバイタル測定を定期的に行い身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろのミーティングやカンファレンスを通じて、本人、家族について情報交換しながらモニタリングし、プラン立案している。また、面会時などご家族から随時意見いただき反映している。	計画作成担当者が担当職員と話し合い、利用者の日常の暮らしぶりや意向を捉え、さらに家族から意見を聞いて介護計画を作成している。作成した計画の原案は職員会議で職員から意見を聞き、正式な介護計画として全職員で共有している。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、毎日のミーティングで気付いたことは随時議題とし情報共有している。検討結果や実践記録についても記録に残し、ケアやモニタリング・ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、他部署と連携した活動への参加、家族の要望や状況に応じた受診付き添いや外出支援・介護保険外のサービスの利用などその時々に応じて対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月広報で地区広報誌の回覧版が届き、コミュニティに参加できる情報を得ることができる。その他、日常の中で地域の美容院やスーパーなどにも出かけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する主治医が決まっており、受診日にはDrあてに最近の状況報告を書面にて行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続や、利用者・家族が希望するかかりつけ医への受診が支援されている。緊急時以外は家族対応としているが、毎回文書にて状態報告を行い、主治医から助言を頂ける関係性が築かれている。電話での相談も行えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間帯ともにいつでも連絡できる体制がとれている。少しの変化や気づきがあればいつでも相談で助言してもらえる。必要であれば受診等の指示も受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供するとともに、入院後は面会に行き状況確認している。看護師やソーシャルワーカーとの連絡を密に取り合うことで、直近の状況把握に努め家族や本人に安心していただけるよう対応し、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針を示し、説明を行っている。状態に応じては法人内の各サービス機関と連携し、身体状態に応じた施設や医療機関へ移行することを基本的な対応としている。本人や家族の不安を軽減できるよう早い段階から、本人、家族、主治医と協議し方針の共有に努めている。	入居時に利用者・家族へホームの「できること」、「できないこと」の説明を行い、重度化に対する指針への理解を得ている。利用者の状況に応じて、他施設等への住み替えの支援も、意向を確認しながら行っている。また、ホーム内でも重度化への支援について職員間で話し合う機会が持たれている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体での研修やAEDの使用訓練、消防署による救急法の研修などを定期的開催している。夜間の看護への連絡体制もとれており、宿直の協力の他、併設事業所職員や、緊急時のコール番との協力体制がとれるようにしている。	全職員が、2ユニットの利用者全員の状態を把握し、急変時の対応が出来るように取り組んでいる。また、法人内研修の実施や消防署による救急法の研修を定期的実施しており、実践力が身に付いている。夜間は看護師との連絡、他事業所職員からの協力を得られる体制が整備されている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設事業所との避難訓練や定期的な車いすを使用した階段昇降訓練を実施しており地域の方にも案内し協力して頂いている。今後も実践力を身につけられるよう努力していきたい。スプリンクラー、警報装置等の消防設備設置があり施設や法人全体で協力体制が構築されている。	法人内において、全職員にマニュアルの周知を図ると共に、緊急体制システム、防災設備等を整備して、災害時に対応できるように取り組んでいる。また、年2回の避難訓練や定期的な訓練を実施することで実践力も身につけている。さらに、運営推進会議を通じて地域の協力が得られるよう働きかけている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を傷つけないように配慮した関わりや支援に努めている。言葉使いや対応など、第三者からの目線も意識し職員間で気をつけている。記録等は事務室に保管し部外者の目に触れないようになっている。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握しながら、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。その中で、職員の言葉がけやケアの方法について、利用者の尊厳を保つよう対応できているか職員間で気づいたことを話し合いながら振り返りを行っている。	慣れ親しんだ寄り添うケアが、ともすると馴れ合いになるという可能性を職員間でも認識している。今後も、より利用者一人ひとりが尊厳ある姿を維持できるように支えていくことを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、必ずご本人にお聞きし、選択し自己決定できるような話しやすい環境づくりと声かけに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事の場所や時間、入浴や外出の希望など、利用者のペースに合わせてお聞きしながら提供している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでもらったり、季節にあった洋服、好みの色やお洒落などを家族や本人に聞くようにしている。髪が伸びていればご家族へ連絡を行い、日々の身だしなみ(ひげや爪切り等)にも配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけ、味見など利用者の力に応じた参加の場面づくりをしている。利用者と職員と一緒に食事をとり味を聞いたり、季節の物やご利用者の好みに合せたメニューを取り入れるようにしている。	献立は法人内のグループホームが1ヶ月ごとに担当して作成し、各ホームの状況や利用者の希望・行事等により随時変更して食事を提供している。アイデア料理やリクエスト献立の日も設定して利用者の希望を取り入れている。バルコニーでバーベキューや流しそうめんを楽しんだり、職員と一緒にちまきや梅酒作りも行っている。日常的にも利用者の力に応じて、準備や片付けを一緒に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を記録にとり、嗜好や体調、咀嚼や嚥下力に応じた食事形態、内容の工夫を行い、栄養士からのアドバイスを得ながら、献立が偏らないように法人内のグループホームで協力し、月毎に担当施設を決めて献立を作成している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、一人で出来ない方には、毎食後声かけをし歯磨きやうがいをして頂いている。義歯の方には残さ物がないか最終チェックを心がけ、定期的に義歯消毒をしている。歯科受診されている方にはその都度医師の助言をもとにケアしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況、排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を促し、オムツの使用軽減に努め、できる能力によりさりげなくサポートしながら、自立支援に努めている。	利用者一人ひとりの状況に対応した排泄用品の使用を行っている。また、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、乳製品や食物繊維の多い食事摂取に努めている。毎日体操を取り入れるとともに、散歩や外出など運動の機会の確保に努めている。排便状況を把握し、状況に応じ緩下剤等での対応や腹部のマッサージ等も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の体制で本人に意向確認して入浴して頂くようにしている。意に沿わない時は時間を置いたり日をずらして対応。最低週2回～希望により毎日入浴される方もいる。現在時間帯は午後のみ対応となっている。	利用者一人ひとりの希望や体調を考慮しながら入浴の支援が行われている。職員の見守りのもと、広い浴室でゆっくりと入浴してもらっており、1対1で会話を楽しめる機会となっている。毎月1回変わり湯を楽しむ企画を行っており、訪問日は「りんご湯」の日で香りを楽しむことができた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息、体調に応じて休まれる方もいる。希望でなじみの布団やマットレスを持ってこられる方もいる。また日中の活動時間を増やし夜間の良眠につなげている。夜間巡回時、居室の温度や明かりなどを把握し安眠できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の状態変化の確認に努め、服薬のマニュアルを作成し、配薬時に事故のないよう努めている。個人ファイルにの内服薬の内容説明書を綴り、参考にしながら服薬の支援と症状の変化の把握に努めている。必要に応じて看護師へ相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに、個々の趣味や生活歴を活かした役割がある。家事などの他に外出や音楽・歌のつどい、サークル活動、映画鑑賞、CAPP活動、託児所の子供たちとの交流の機会等を設け気分転換の場を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけたい方、そうではない方、一人一人に応じて対応している。時期に応じた外出を企画し、季節を感じていただけるような活動を行っている。ご家族の協力を得て定期的な外出や外泊される方もいる。日々の買い物の帰りに、懐かしい場所や近所をドライブすることもある。普段家族とはいけない泊旅行や新年会などにも外出された。	2つのユニット間の交流は自由に行われており、敷地内の庭への散歩は毎日のように行っている。利用者一人ひとりの希望に沿い、買い物や美容室、書道サークル、パワーリハビリ教室への外出も支援されている。また、お祭り見学や、ぶどう狩り、新年会を料亭で行うなど、普段は行けない場所へも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品や金銭管理についてはご家族に十分説明し自己責任としている為、実際に使用する方は殆どいられないが、本人希望される方については自己責任のもと所持していただいている。現金での買い物時は支払い行為のできる方にはして頂いている。必要時は施設で個人の立替金を用意し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はケアセンターにて電話を使用して頂いている。他者がいることに気を使われる方には、子機を使用し居室で通話して頂いている。また、ご家族に時々手紙を書かれ文通されている方もいられる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間ではご利用者の意見をききながら季節感を取り入れた装飾や、花などを置くとともに、金魚や魚など生き物を飼うことで心安らぎながら過ごせるように努めている。エレベーター前や玄関には季節に合った装飾をするとともに毎月の予定を掲示し季節を感じていただけるようにしている。	共用空間には、移り変わる季節を感じられるような装飾が施されている。エレベーターホールの飾りつけも毎月変えており、飾られる花は家族が持参するものもある。訪問調査時は、職員のアイデアにより、果物や、植物のついでで作った細工、網焼きコンロや釜等がディスプレイされ、心む空間が随所に作られていた。広い窓からは町並みと植栽が見え、出窓の多くの観葉植物と一緒に目を休ませしてくれる。洗面台や手すりの高さも利用者が使いやすいと、安全性への配慮も伺えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの定位置や好きな場所はだいたい決まっているが、配置換えや間仕切りをして空間作りをしたり、ソファや畳の小上がりなども設置することで、その時の気分にあった好きな場所で過ごされている。一人で過ごしたい時は居室へ行かれる方も多い。天気の良い日バルコニーや庭も活用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の大切さや安心感などを入居時にご家族に説明し、ご本人に合った空間づくりに協力してもらっている。テレビや冷蔵庫、好きな絵や写真など思い思いの物を持参されている。	できるだけ入居前と同様の環境の中で心地よく過ごせるよう、入居前の事前訪問で本人の自室の様子を確認し、ホームの居室での家具の配置等を工夫している。一人ひとりが大切にしている写真や飾り物のほか、家族が来た時のための椅子や冷蔵庫など、馴染みの物が持ち込まれており、ゆっくり過ごせる居室作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレにのれんをかけた後、準備が自分で出来るように、食器棚に入っているものを家具に明記したりしてわかりやすく動けるように工夫している。必要なトイレや居室にはわかりやすいように「トイレ」「便所」の表示や、氏名や目印を認識しやすい位置に表示している。バルコニーの時間開放について検討中である。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない